

H19 年度第 1 回 室内試験規格・基準委員会 WG 6 (ジオシンセティックス)

議事録 (案)

10月 14日 報告

日時	平成 19 年 6 月 29 日 10:30~13:00
場所	地盤工学会本部 3 階小会議室
参加者	平井 (三井化学産資)、椋木 (熊大)、加納 (ネオ・ルーフィング)、竜田 (前田工織)、中村 (苫小牧高専)、平川 (東京理科大)、宮田 (防大)、原 (太陽工業)
欠席者	木幡 (室蘭工大)、篠田 (鉄道総研)、矢島 (明星大)、榊尾 (太陽工業)

報告

- ・ 前回の議事録の確認 (椋木)
- ・ 室内試験規格・基準委員会の議事録の説明 (平井)
 - ー完全 JIS 化する作業の説明
 - ー執筆要領の配布
- ・ スケジュールの確認 (平井)
 - ー7 月いっぱいに見直し改定を終了 (期限厳守)
 - ー土と基礎に掲載する内容→赤本の改訂理由の解説 (経緯、理由の説明←詳細を平井から後日送信)
- ・ HP の掲載の報告

審議

- ・ 摩擦特性試験法グループの作業進捗状況の説明 (中村)
 - ーISO との比較について、どの部分を参考にしているか。ISO の規格からあまりかけ離れたものを作るのは大丈夫か? (宮田→中村)
 - ー解説の部分で適用範囲について説明が必要。試験法が 3 つあることについても言及が必要。(平井→中村)
 - *将来的には 1 つに絞ることを念頭に SubWG で検討し、後日中村より報告。但し、あまりに細かいこと (特に引き抜き試験) を指定してしまうと誰も使用しなくなることを考えて基準の作成。
- ・ 垂直方向・面内方向透水性能試験法グループの作業進捗状況の説明 (宮田)
 - ー水道水と脱気水を使うことに関する説明をどうするかという議論はある。
 - ー温度 (ISO は 20℃ しかし、土質試験の標準温度は 15℃ になっている) の統一
 - ー温度精度 (±2℃ か ±5℃ か?)
 - ー引用規格の確認
 - ー変水位試験は残す (適用範囲を持たせる。ユーザーが選択)
- ・ 見掛けの開孔径試験方法グループの作業進捗状況の説明 (平井)
 - ー乾式の試験法を削除するかどうかの議論中
 - ーISO に準拠した内容に改定 (湿式の試験法では使用する粒状体材料の特定が困難。提案はあるが、材料の選定が難しい。)

・ 全体

- －書式の統一をしなければならないので、平井から最終書式を全員に配信する。
- －ジオシンセティックスの用語の改訂作業(JIS L 0221 は古い)が進んでおり、そのたたき台原稿を平川から全員に配信し、Technical Term を統一するよう努力する。
- －赤本解説の打ち合わせ親委員会（7/5）の日程が決定してから決める。
- －透水試験法についてはできるだけ早く資料を提出
- －後はメール審議で細かいことを決めていく。

次回の委員会 8月末（JIS フォーマットにして提出）